

令和7(2025)年度 第2回みよし市ゼロカーボンシティ推進協議会

次第

日時: 令和8(2026)年2月17日(火)

午前10時から正午まで

場所: 市役所庁舎6階 601・602 会議室

1 開会

2 議事

- (1) 令和7年度の振り返り
- (2) 令和8年度の施策実施内容
- (3) ディスカッション

3 閉会

※配布資料

資料1 : 議事次第

資料2 : 第2回みよし市ゼロカーボンシティ推進協議会資料本編

第 2 回

みよし市 ゼロカーボンシティ推進協議会

令和 8 (2026)年 2 月 17 日(火)

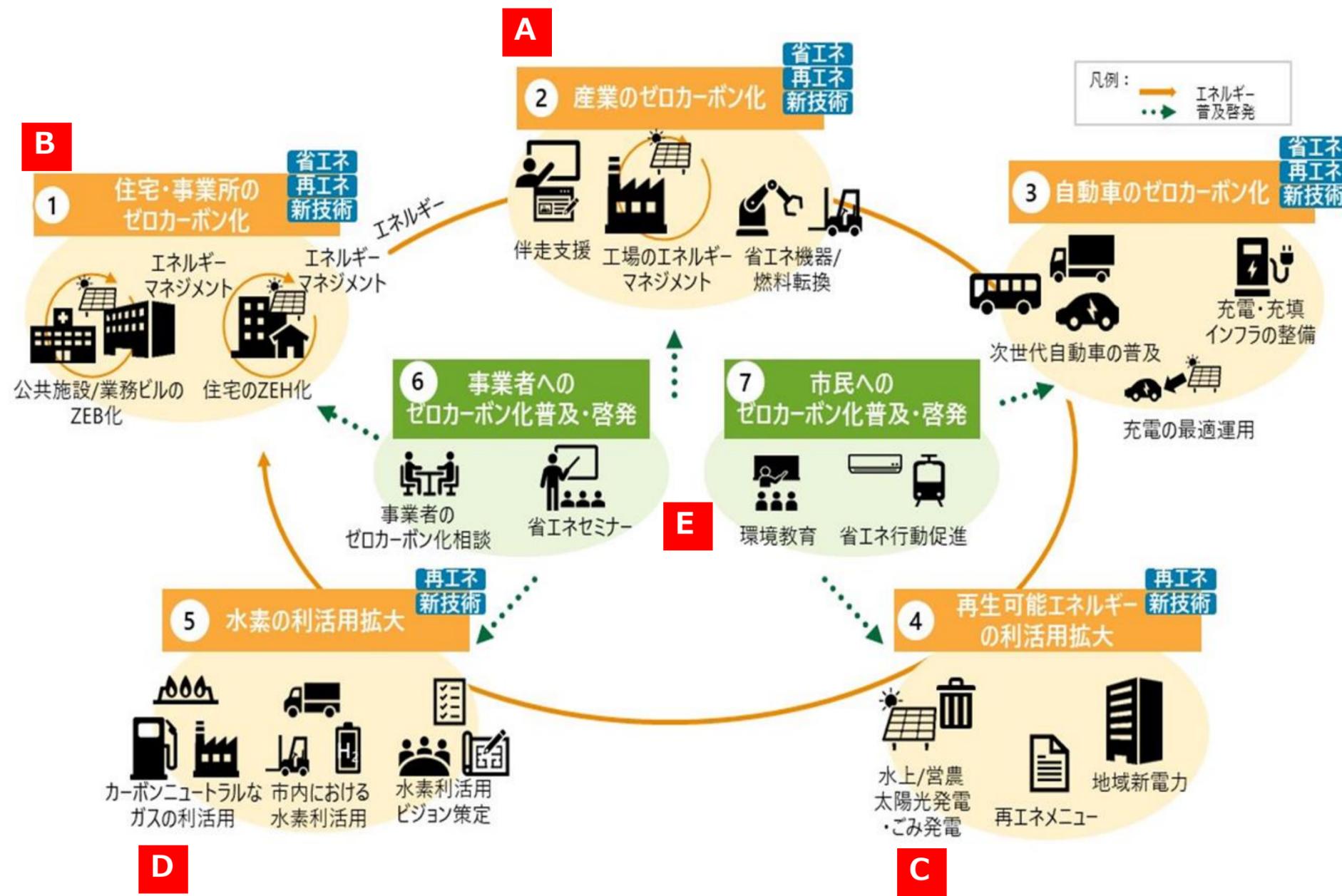


議事・タイムスケジュール

- | | | |
|----|--------------|----------------------|
| 01 | 令和7年度の振り返り | 10:00-10:45
(45分) |
| 02 | 令和8年度の施策実施内容 | 10:45-11:00
(15分) |
| 03 | ディスカッション | 11:00-11:30
(30分) |

01 令和7年度の振り返り

ゼロカーボンシティ推進計画に掲げる施策



7つの施策

主な事業

- ✓ **脱炭素プラットフォーム伴走支援** P5-P8 A
- ✓ **公共施設カーボンニュートラル化** P9-P11 B
- ✓ **ため池を活用した再生可能エネルギー導入事業** P12-P13 C
- ✓ **FCトラック導入事業・導入促進事業** P14-P15 D
- ✓ **普及啓発事業** P16 E

※前回の協議会以降に実施した事業を抜粋

脱炭素プラットフォーム伴走支援



施策②

産業のゼロカーボン化

事業概要

市内事業者の脱炭素経営を促進するため、脱炭素経営に必要な取組について伴走支援を実施

支援内容

- ✓ CO2排出量の現状把握
- ✓ 削減方策の検討（省エネ対策、再エネ導入等）
- ✓ 排出量削減ロードマップの策定

など

支援者数

3社

費用

無料



A社様のウォークスルー診断時の様子

No	削減名	CO2削減量 (t-CO2/年)	CO2削減率	投資額 (百万円)	投資回収年数 (年)	実施時期
1	生産効率改善	30	10.0%	0.5	3	A 2024年
2	熱ロス削減	20	5.0%	0.5	3	A 2024年
3	エアロス削減	10	0.2%	0.5	3	A 2024年
4	待機電力削減	5	0.1%	0.1	1	A 2024年
5	40	15.0%	5.0	5	B 2025年
6	LED照明への取替	20	80%	1.0	5	B 2025年
7	5	1.0%	0.1	1	A 2024年
8	50	10.0%	5.0	5	B 2025年
9	200	40.0%	30.0	10	C 2030年
10	コンプレッサの更新	100	10.0%	5.0	8	D 2040年
11	空調設備の更新	50	10.0%	10.0	10	B 2025年
12
13

削減方策のリスト化（イメージ）



ロードマップ（イメージ）

令和7年度の支援事業者

	業種	従業員数	主なCO2排出源
A社	プレス金型の製造・設計	約50名	コンプレッサ、照明設備、空調設備、変圧器による損失
B社	各種滑り軸受製品の製造	約100名	コンプレッサ、空調設備、溶解炉
C社	金属プレス加工部品の製造	約20名	コンプレッサ、照明設備、空調設備、変圧器による損失

脱炭素プラットフォーム伴走支援



施策②

産業のゼロカーボン化

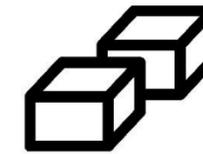
まとめ

- ✓ 経営者の意識
- ✓ 現場の責任者の有無
- ✓ 定期報告



ヒト

モノ



- ✓ エア漏れ修理・空気圧の適正化
- ✓ LED化
- ✓ インバータ制御
- ✓ 太陽光設置

脱炭素経営

- ✓ 脱炭素は“投資”ではなく“利益改善”
- ✓ 短期回収重視



カネ

情報

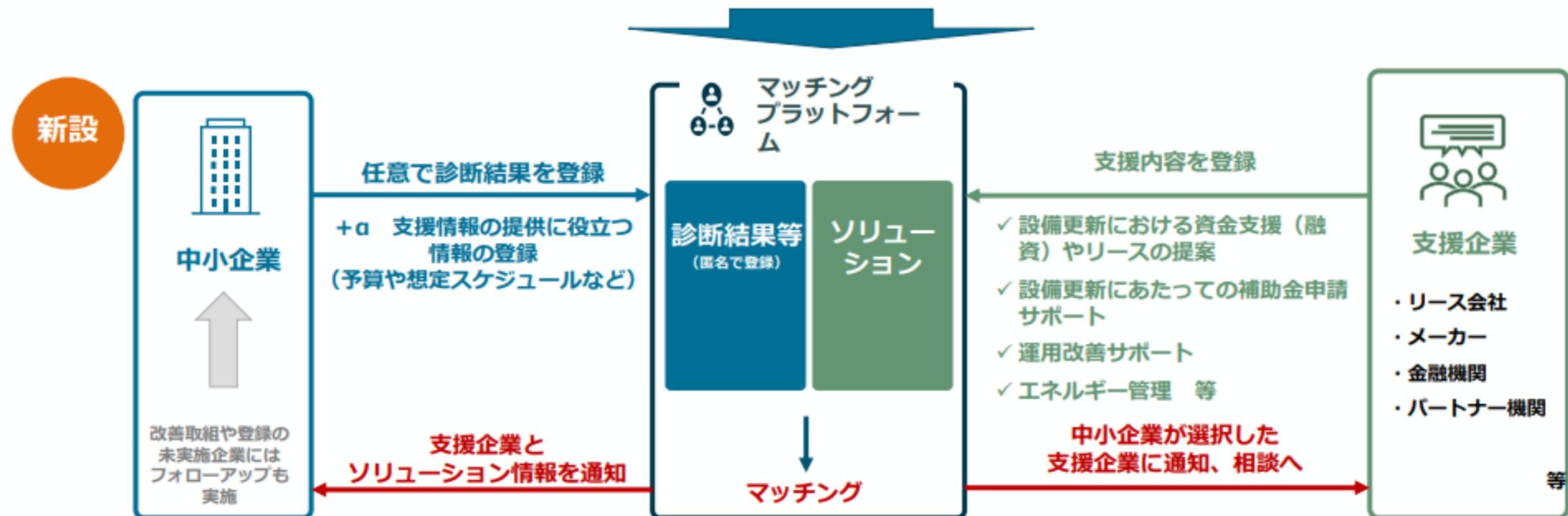
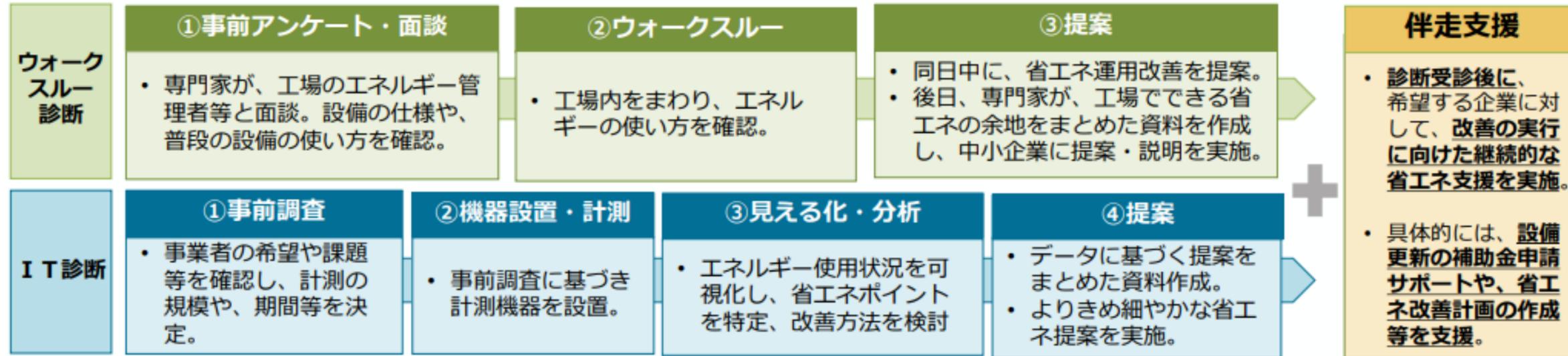


- ✓ セミナー参加
- ✓ 情報開示

- ✓ 事業者の省エネ・脱炭素の取組状況には大きな差があるため、**各事業者の段階に応じた支援が必要**である。
→ 人手不足や取組意識など要因は様々だが、**経営者の意識醸成**や**取引先からの要請**が取組促進に有効だと感じた。
- ✓ 製造業では、**コンプレッサー由来の電力使用割合が高い**ため、**運転改善**や**エア漏れ対策**など、エネルギーロス（ムダ）削減の取組が効果的である。
→ エア漏れ箇所の特定には、**超音波探査器が有効**であるが、高価でレンタルでも数万円かかることが課題である。
- ✓ 今後は、ロードマップに基づく施策を**いかに実行に移すか**が重要であり、引き続きフォローが必要である。
→ 施策の実行方法について、**提案や事業者マッチングができる体制**を整える必要がある（国のマッチングプラットフォーム事業の活用も考えられる）。

令和7年度補正予算よりマッチングプラットフォームが新設

「具体的に何をやればよいか分からない」との中小企業の声も多いことから、専門家による省エネ診断への支援を実施。R7年度補正では、**改善提案の実現に向けて、ソリューションを提供する企業とのマッチングプラットフォームを創設**。加えて、**進捗状況のフォローアップを強化**（取組が進んでない企業に対しては伴走支援を紹介など）。



公共施設のカーボンニュートラル化

施策①

住宅・事業所のゼロカーボン化

事業概要

市の事務事業に起因するCO2排出量の削減に向け、CO2排出量が多い以下の公共施設のロードマップ策定に向けた調査を実施



市役所庁舎



みよし市民病院



学校給食センター

上記3施設をモデルケースとして、今後、各公共施設のCN化に横展開



市役所庁舎
(室外機)



みよし市民病院
(太陽光パネル)



学校給食センター
(配膳室)

令和7年度の実施施設

施設名	床面積	建築年	構造	CO2排出量 (t-CO2)	CO2排出割合 (対市全体)
市役所庁舎	11,156㎡	H24(2012)	SRC	491	7%
みよし市民病院	9,750㎡	H13(2001)	SRC	1,922	27%
学校給食センター	3,388㎡	H14(2002)	S	538	8%

令和6年度：市事務事業におけるCO2排出量 7,129t-CO2

公共施設のカーボンニュートラル化

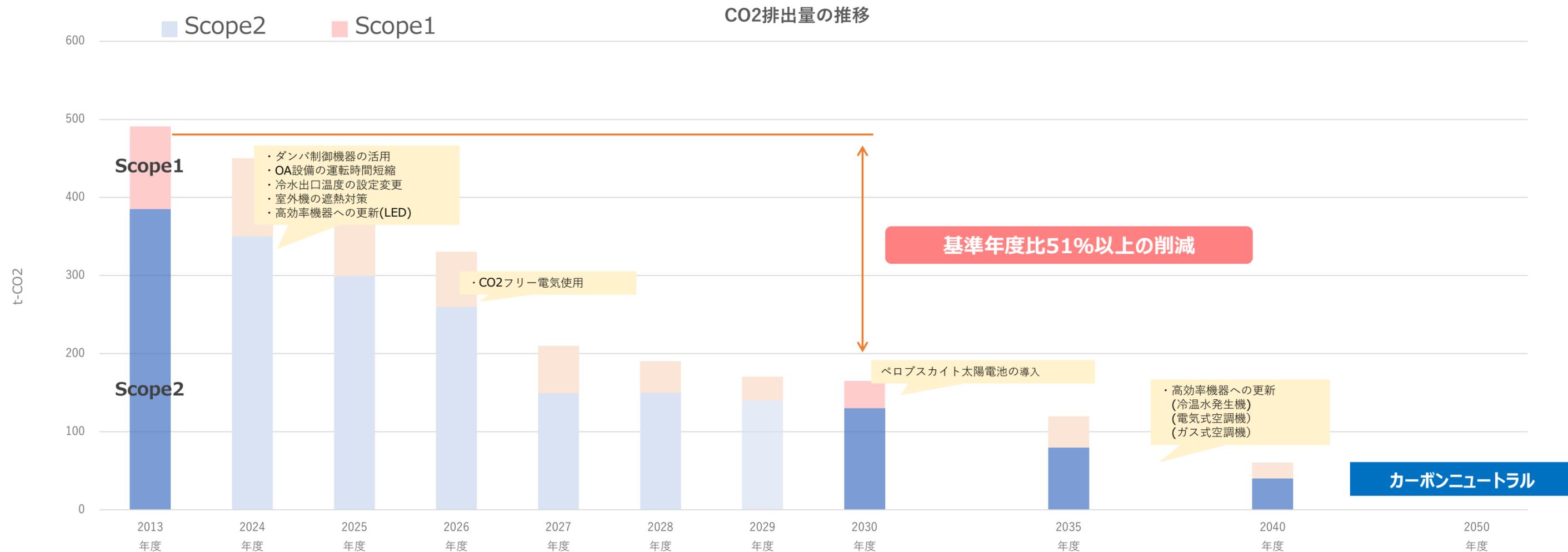
施策①

住宅・事業所のゼロカーボン化

進め方

脱炭素プラットフォーム伴走支援同様 ～事前調査、現地調査、削減策の洗い出し、ロードマップ作成（現在、施設担当課と協議中）～

ロードマップ～イメージ～



公共施設のカーボンニュートラル化



施策①

住宅・事業所のゼロカーボン化

まとめ

施設名	主な削減策	CO2削減量 (t-CO2)	投資費用 (千円)	投資回収年 (年)	特徴（既の実施している、課題）
 市役所庁舎	ダンパ制御機器の活用（空調設備）	11.5	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・照明設備は、建築当初から一部を除きLED ・性能向上によりLED to LEDでも一定の効果あり
	OA設備の運転時間短縮	6.2	—	—	
	太陽光発電の導入	5.1	4,500	13.1	
	高効率設備への更新（LED）	28.9	51,406	26.2	
 みよし市民病院	冷水・冷温水温度の適正化（空調設備）	15.4	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間365日稼働 ・2041年度に施設の更新を予定 ・設備の導入、更新は、その点も踏まえて要検討
	空気比の適正化（ボイラ）	11.1	—	—	
	高効率設備への更新（LED）	13.3	9,895	11.7	
	太陽光発電の導入	15.9	16,875	16.6	
 学校給食センター	空気比の適正化（ボイラ）	9.2	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・照明設備は一部LED化済 ・ガス調理器具があり、3施設の中で唯一ガス由来のCO2排出量が電気由来の排出量を上回っている。 ・熱源の脱炭素化をどのように進めていくか要検討
	室外機の遮熱対策	3.6	—	—	
	遮熱フィルム、ブラインド、カーテンの取付	1.4	585	5.0	
	太陽光発電の導入	17.0	18,000	13.1	

✓ 運用改善と設備投資で削減できる各施設のCO2排出量は1割程度

✓ 足元で省エネを進めつつ、CN化には再エネ由来の電力購入やカーボンオフセット都市ガスの導入検討が必要

ため池を活用した再生可能エネルギー導入事業

施策④

再生可能エネルギーの利活用拡大

事業概要

- ✓ 令和7(2025)年中に実施した「ため池を活用した再生可能エネルギー導入事業プロポーザル」において事業者を公募。
- ✓ **大和リース株式会社を代表企業とする共同企業体**を選定した。
- ✓ **後田池(明知町砲録山地内)で発電した再生可能エネルギー100%の電力を市民病院へ供給する事業**を、次のとおり採択した。

ため池	実施期間	発電規模 (AC・kw)	年間発電量 (MW/年)	導入スキーム	CO2削減量 (t-CO2/年)
後田池	令和8年度末～ (20年間)	250	392 (市民病院の年間電力使用量の約2割相当)	オンサイトPPA※ (自営線接続型)	161



※「オンサイトPPA」とは、発電事業者（PPA事業者）が需要家の敷地内や屋根などに太陽光発電設備を設置し、発電した電力を需要家がい取りする仕組み。これにより、需要家は初期投資ゼロで再生可能エネルギーを導入できる。

ため池を活用した再生可能エネルギー導入事業



施策④

再生可能エネルギーの利活用拡大

電力調達スキーム

後田池で発電した電力を**自営線にて直接供給**（発電事業者へ毎月電力料支払い）



スケジュール

R8年度末の供給開始に向けて、関係者との調整を実施中

	R7年度					R8年度						R9年度										
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
事業者選定		●																				
自営線接続			病院設備調査									自営線工事		病院設備改造								
法令関係		対象法令確認							対象法令届出			許認可										
国補助金申請						R7補正予算																
電力契約					基本協定締結			電力契約														
太陽光工事		関係者調整・調査設計												パネル設置工事								
電力供給					近隣住民説明会																供給開始	

主な関係者

- ・地元土地改良区
- ・営農者
- ・近隣住民
- ・行政区
- ・愛知用水
- ・市民病院
- ・道路管理者 等

FC小型トラック導入事業・導入促進事業





事業概要

✓ FC小型トラック導入事業

水素の社会実装の実現を目指し、水素利活用を促進するため、**本市給食配送業務にFC小型トラックを1台導入。**

✓ FC小型トラック導入促進事業

FC小型トラックの導入に係る費用の一部を補助することにより、運輸部門におけるCO2排出量を削減するとともに、水素需要の創出を図る。

FC小型トラック導入事業

R7.11より運行開始

配送ルート	北中学校 緑丘小学校
日走行距離	約40km
航続可能距離	約260km
最大積載量	2.4 t
CO2削減量	約 2.2 t-CO2



FC小型トラック導入事業・導入促進事業



施策⑤

水素の利活用拡大

FC小型トラック導入促進事業

1 燃料電池自動車トラック導入促進費補助金の創設

導入費



燃料電池自動車トラックの導入を希望する市内事業者（3社）に対して、導入費用を補助

例) FC小型トラック（リース料含む） 4800万円
 (車両価格 4,100万円+リース料 (メンテ代含む) 700万円)

ベース車両 (リース料含む) 600万円 <small>車両本体 500万円 + リース料 100万円 (仮)</small>	差額 4,200万円 <small>(車両本体3600万円+リース料600万円)</small>			(上限6,898千円)
事業者負担額 900万円	国 車両本体のみの差額 3/4 約2,700万円 (上限約2,500万円)	県 リース料差額相当額込 1/6 約700万円	市 リース料差額相当額込 1/6 約700万円	
	国	+	県	+
			市	



2 燃料電池自動車トラック水素燃料費補助金の創設

燃料費



燃料電池自動車トラックの運用に伴う水素燃料の購入に要する経費の一部を直接補助

補助単価	238円/kg(愛知県の補助単価と同額)
上限額	1台あたり 700千円/年



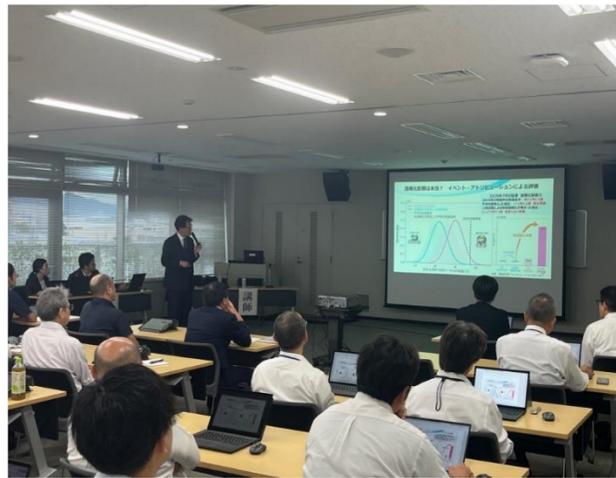
普及啓発事業

施策⑥・⑦

事業者・市民へのゼロカーボン化普及・啓発

令和7年度（10月以降）の実績

ゼロカーボンシティ推進研修会



市内事業者・市民・市職員などを対象に、次世代エネルギーの現状や課題等を学ぶ特別講演

講師	愛知工業大学 近藤元博 教授
対象	市内事業者・市民・ 市議・市職員など
参加人数	約100人

産業フェスタにおける水素ワークショップ・MIRAIの展示



水素エネルギー等についての学習・体験できるワークショップ



トヨタ自動車(株)様ご協力のもと、MIRAIのカットモデルを展示



来場者の観覧の様子

共催	愛知県	
対象	小・中学生	
参加人数	第1回	4組
	第2回	4組
	第3回	5組

ハピエコ講座



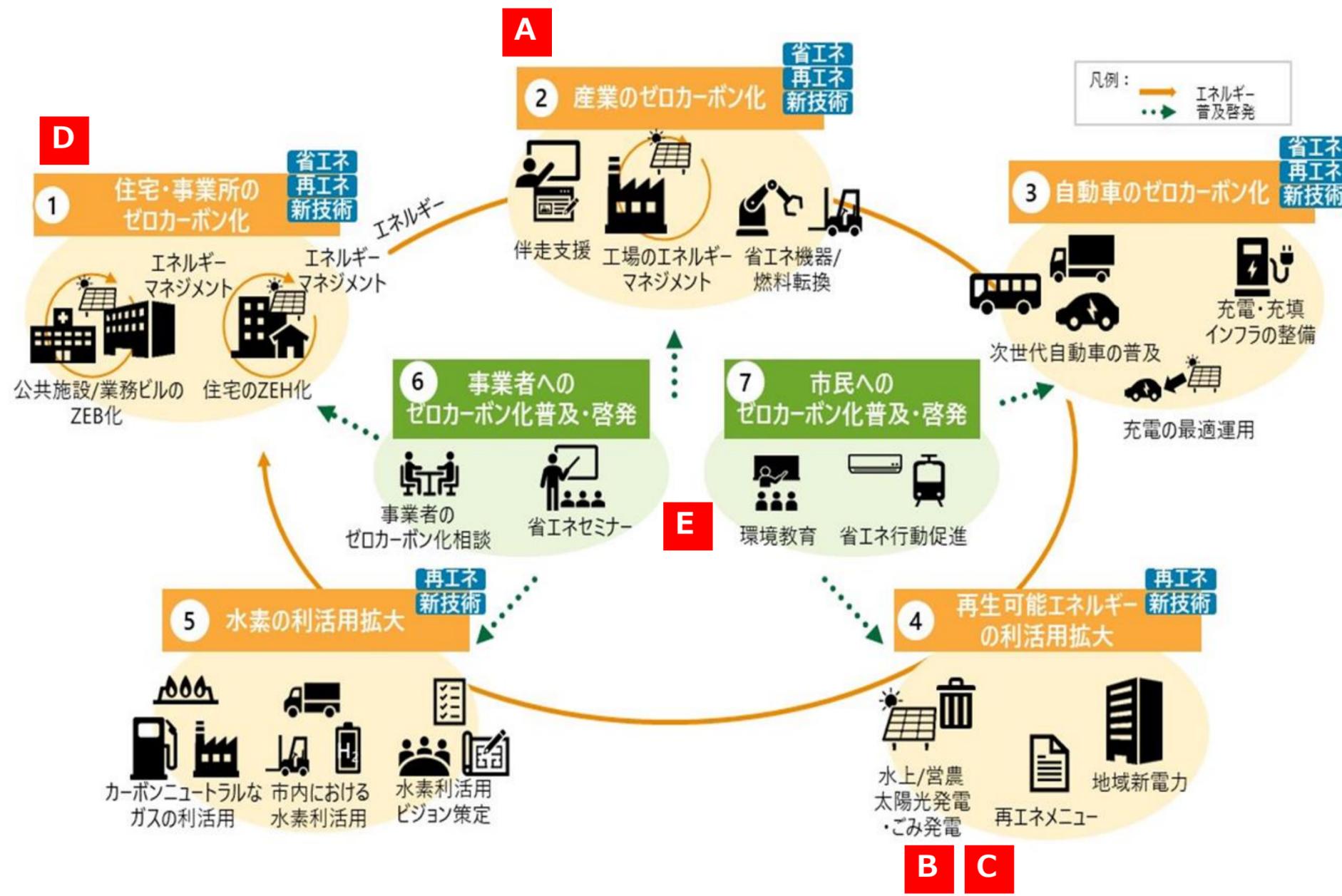
本市出身の村田美穂氏を講師に迎え、気候変動をはじめとする環境問題について、クイズを交えながら楽しく学ぶ講座



講師	一般社団法人Hidamari 村田美穂 氏
対象	市内各中学校 (2年生)

02 令和8年度の施策実施内容

ゼロカーボンシティ推進計画に掲げる施策



7つの施策

主な事業

- ✔ **脱炭素プラットフォーム伴走支援** A
- New
✔ **ペロブスカイト太陽電池実証事業** P19 B
- ✔ **ため池を活用した再生可能エネルギー導入事業** C
- New
✔ **公共施設照明LED化事業** P20 D
- ✔ **普及啓発事業** E

ペロブスカイト太陽電池実証事業



事業概要

次世代太陽電池であるペロブスカイト太陽電池の社会実装に向けて、愛知県が県内市町村施設を対象に公募した実証事業に採択されたことを受け、R8.4に開園予定の城山保育園をフィールドとして実証を行います。（実証予定期間：R8～R11）

コンセプト

緩和 と 適応 を同時実現した モデル施設

緩和

- 施設のZEB化（省エネ）
- 再エネ導入（PSC・結晶型）



適応

- 熱中症対策（高断熱・ミストなど）
- レジリエンス強化（停電時も稼働可能）

✓ 市内初の「ZEB ready基準を※満たした木造構造の保育園」であり、本実証におけるペロブスカイト太陽電池設置と合わせた環境に配慮した次世代モデル施設として視察等の受け入れを含めて積極的にPRを行っていく。

✓ ペロブスカイト太陽電池にて発電された100%再エネ電力を建物照明とドライミストに活用することで、緩和と適応を同時実現。

※竣工図面にてZEB ready認証取得予定

ペロブスカイト太陽電池 設置イメージ



完成イメージ図

設置予定箇所
(倉庫南壁面)

PSC 壁面 (約1kw相当)

結晶型 屋根 (追加予定)

ドライミスト 設置イメージ

ドライミストを発生させるための、水圧圧縮ポンプの電源として、ペロブスカイト太陽電池を活用



公共施設照明LED化事業



施策①

住宅・事業所のゼロカーボン化

事業概要

LED化が完了していない施設を対象に、短期導入が可能であるとともに財政負担の平準化が図られる手法である一括リース方式によるLED化を実施します。

公募方式	公募型プロポーザル方式
契約方式	リース
契約期間	10年
実施施設	60施設程度

※現時点における予定

実施予定施設例



学校給食センター



歴史民俗資料館



緑と花のセンター

エコエネルギー促進事業補助金

施策①

住宅・事業所のゼロカーボン化

事業概要

卒FIT電力の自家消費移行や災害時のレジリエンス強化などを促進するため、燃料電池システム（蓄電池）の補助金を拡充します。

補助上限額 15万円 → **40万円**



拠点防災備蓄倉庫



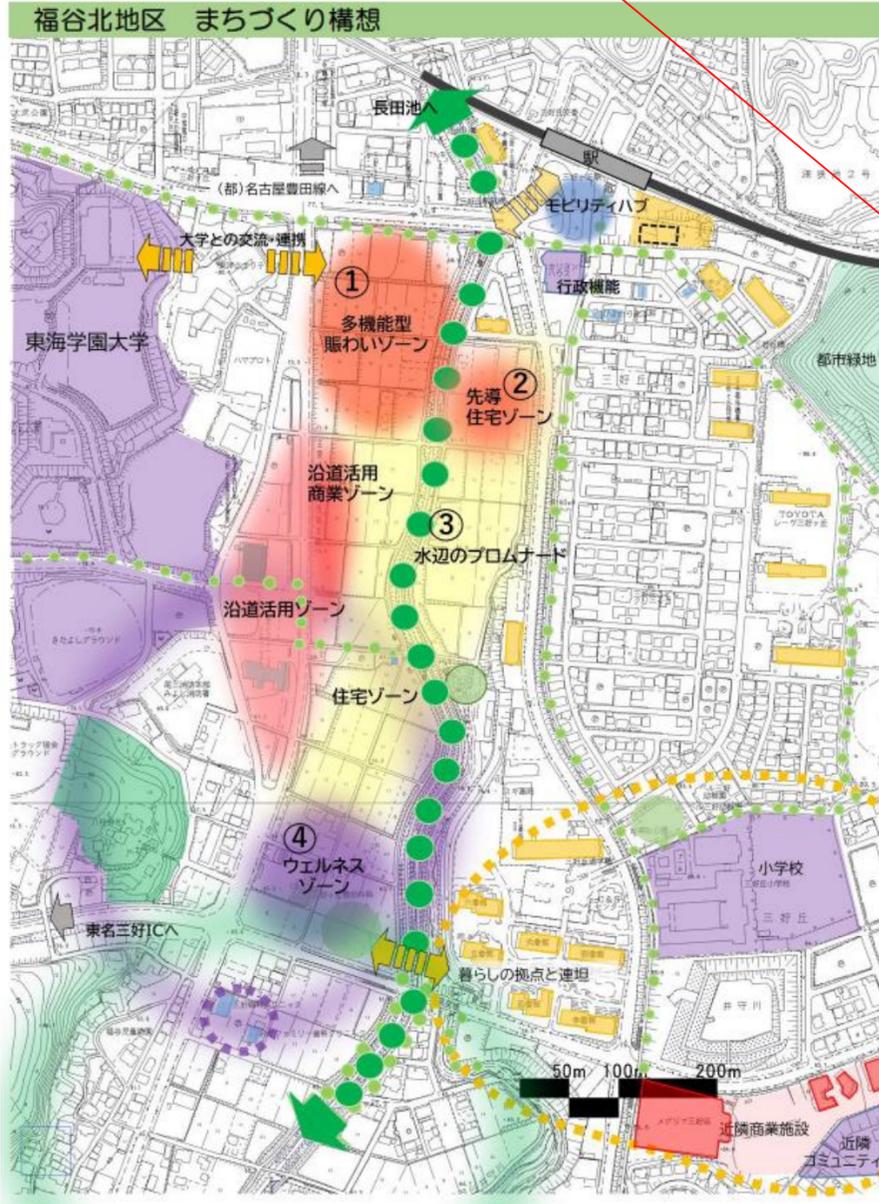
03 ディスカッション

福谷北地区まちづくり構想

コンセプト

“地域のヒト、コト、モノをつなぎ 人々の笑顔と活力で暮らしを彩る MIYOSHI のゲートタウン”

「エネルギーの地産地消」、「次世代モビリティの活用」についても構想で掲げている。



① 多機能型 賑わいゾーン ※活動シーンや取組みのイメージ (②~も同様)

- 大学、市民、企業、行政等の共創により、地域資源を活用した新たな価値創造とあわせ、地域内外の交流を促し、市の玄関口に相応しい賑わいと活気ある活動の場
- スポーツを生かした地域づくり
 - 大学やスポーツ団体等との協働により、遊びを通じたこどもの成長支援、健康づくり、地域内外の交流
 - 屋内、屋外型のスポーツ等が楽しみ、災害時には防災機能を発揮
- カフェ・レストラン等の地元食材を堪能
 - 地元農業者と事業者と連携により、果物など地元食材を使ったスイーツなど「食」を楽しむとともに、キッチンスタジオ等で食を通じた交流
- コミュニティビジネス等の起業
 - 超高齢化など地域課題の解決に向け、NPO、大学生、リタイア層の参画も促しコミュニティビジネス等の起業を支援
- 子育て世代の総合的な支援
 - 子育て世代同士が交流し、子育ての悩みを共有し、子育て支援の場を提供

② 先導住宅ゾーン

エネルギーの地産地消

- 高いレベルの省エネ・創エネを実現する快適な住宅
- エネルギーの地産地消を先導し、災害時にも強いまち

健康・快適な住宅

- 健康管理システムの導入により住民の健康状態を管理、見える化

③ 水辺のプロムナード

- 暮らしに彩りを添える境川沿いの水辺空間
- 川辺の緑陰空間を楽しむ
 - 四季を感じながら心地良い川辺を回遊する
- 川辺の公園で遊ぶ
 - 大人もこどもの遊びのびと過ごせる公園 (例: デイキャンプ場やドッグラン等) が点在
- 自然を学び、楽しむ
 - 市民と大学、企業等が連携し、水辺の生物や植生等の自然観察や自然環境の保全

④ ウェルネスゾーン

- 公園、地区周辺の緑、農業資源、クリニック等を生かし、地域の健康的な暮らしを支える場
- 健康を学び暮らしに取り入れる
 - クリニック等の協力・連携により健康講座、イベント、メディカルフィットネス等を楽しむ
 - 高齢者のQOLの向上にも貢献
- 農を通じた心身の健康づくり
 - 地元農家と連携し、栽培〜調理、食事を通じた食育や、軽作業を取り入れた農業セラピーなどの起点

その他

次世代モビリティを活用

- ロボタクシーやパーソナルモビリティ等、企業との協働による先導的なサービスの提供

デジタル技術の活用

- 防犯カメラ等のデータを活用した安全な暮らし
- インフラや植栽管理を効果的・効率的に実施

令和8年度の開催スケジュール案

	日時	場所	議題
第1回	令和8年9月～10月頃	市役所庁舎	<ul style="list-style-type: none">・ 令和7年度の実績及び計画の進捗報告・ 令和8年度の主な取組説明
第2回	令和9年1月～2月頃	市役所庁舎	<ul style="list-style-type: none">・ 令和8年度の振り返り・ 令和9年度の施策実施内容